
詞集

村雨

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

詞集

【作者名】

村雨

N4650V

【あらすじ】

僕が作る曲の歌詞を載せていいと思うのです。

曲より先に出来ているモノが大半になるので、曲そのものを聴くのはだいぶ後になる可能性もあります。とりあえずは単純に詞（詩）の詰め合わせと思ってください。

拙い作品ですが、読んでくださる方に少しでもインプットが増えれば幸いです。

感想・ご指摘お待ちしております。

スタンダード（前書き）

作詞：村雨
作曲：村雨

曲は現在、銳意製作中

スタンダロン

聞き飽きた言葉は決まりなく広がつて
際限ない選択肢を投げかける

鏡の中で言つ「俺は僕じゃない」
そうです

なら僕は誰?そこにはいるの?

ひとりでいいんだ
何も困らない
だつてほら息ができる
血を流せる

誰かが嫌いな僕が嫌い
紡がないように手を止める

君の僕は言つ「君は僕じゃない」
そうです

なら君は誰?ここにいるの?

剥がして痛いなら

そのまま触れなくていい
ひとりでなんとかするから

見上げた空
重なる多角形

光量が潰す翼は孤独を知り
手を放せば鳥は地を這う

君は知らないだろう、胸を貫く光
僕は知らないから、君の見えた光

手を放して
歩けなくなるから

飛べないのは背負つた羽根が重いんじゃない
羽ばたいて欲しいと願えば鳥は空を飛ぶ

ほひいた線の先（前書き）

作詞：村雨

作曲未定

まひいた線の先

君の好きな簡単な絵を
色を消して線に戻して
連れは未来があるような気がして
カメラを持つて立ちすくんだ

短すぎる時間僕は夢を見た
目を開いて現実にするつもりが
どうやら遅すぎたらしい

失いたくないよ 痛みさえ
開いた傷口から暖かい血が流れるなら
はじまりの笑顔だけ張り付いて
何も手放さないまま全て失っていく

映画館で単純な絵を

色は無くて線のままで

そのまま画面に移しどつたら
電話の向こうで声震えてた

少し長い時間僕は躊躇つた
それだけでも伝えたいことだけは
どうやら遅すぎたらしい

たとえば時間を戻せたとして

望む通りになるとして
変えたいことが多すぎて
変えてるつむに今日になる

それなら

失いたくないよ 痛みさえ
開いた傷口から暖かい血が流れるなら
はじまりの笑顔だけ張り付いて
何も手放さないまま全て失っていく

僕だけじゃないよな
君もきっと

視界から消える
君の名を呼ぶ
僕を消す

そう上手くは行かないよな
そうだよな

ルーツ（前書き）

作詞・作曲：村雨

近日公開

ルーツ

不協和音が鳴り止むまで手を触れよう
鳴り止んだら此処にはいなによ
先に行くよ

望んだ世界はない　此処にはただ
紛うことない今さ　それだけ

見えない目の前は辛いのかな
でも戦い方は学んだらう

もつ吸わない空気　埃ごと飲み干せ

出来るだけ高く手を掲げましよう
出来るだけ強く腕を振りましょう

放り投げた自分に触れてくれた
それで満たされた　嘘じやないよ

オノレを刻むかけがえのないストーリー

嘆れるほど強く意のままを叫べ
痛いほど　心　空に解き放て

要らないモノばかり集めて
心に針を刺すだけの日々も
僕を成す愛すべき感謝の傷

不協和音が鳴り止むまで手を触れよう
鳴り止んだら此処にはいないよ
先に行くよ

意味ないことも要らない心も
際限なくぶつける時間があつたなら
それでいいさ きっと
どうにかやつていける

いつかこの場所を訪ねて
再び時間を戻して歩くなら
僕らの誇るべきルーツになる

白（前書き）

作詞・作曲：村雨

作曲中

白

不定形 白のキャンバス
それに白い絵の具を塗る

不变性 明日の日程
否定理由探して乞う

僕を切り身をよじる
不恰好でも進むしかない
全てを知らないために
ただ一つでいい

そうやって生きてきた 笑えよ

不器用なんて今更
いつか見た未来
ただそれを塞ぐ白

無段階 空の連続
人は四角に切り取る

君を切り胸穿つ
不恰好でも笑うしかない
全てを知らないために
ただひとつでいい

そうやつて生きてきた 笑えよ

目を閉じながら空見て

強く差す光

ただそれで満たす白

焦がす痛みを誇りに変える

その先の虹 踏みつける一步

そうやつて生きてきた 笑えよ

心臓共に鳴らして

いつか見た未来

ただそれを描く白

白（後書き）

さつま。

弾き語りしたくてつくれてみました。
そのうちブログうらしたいです。

クロックワイズ（前書き）

作詞・作曲：村雨

作曲中

クロックワquiz

有限の明日が過ぎていって
無限の昨日を想う
下らないゴミ溜め漁つたら
光る今日の糧はありますか？

永久の愛を歌つたつて
刹那の機微に失せる
残らない声だけ叫んだら
歪む心の時計は回る

さらされた体温
失われた未来
閉まるドアの向こう
君の言葉を刻む

手を繋いで もう一度
明日を失つてもいいように
触れた振動 消えない残像
噛み合う今この時 本当が鳴る

解けていく心臓
碎け散つた過去
閉まるドアの向こう
僕の命を刻む

手を繋いで もう一度
明日を失つてもいいように
触れた振動 消えない残像
噛み合つ今この時 本当が鳴る

本当を鳴らす

クロックワquiz（後書き）

バンドっぽい曲を作りたかつただけで書きました。
だからだいぶ単純になってしまった；

証明の弾丸（前書き）

先に断つておきおくと、謂じやなくて詩のつもりです。

証明の弾丸

君の手には拳銃が
誰かを撃ち抜く弾丸が
引き金を引くその瞬間が
君の存在価値なんだ

伝えぬ想いに意味はなし
だから僕はゴミだらけ
増えてくゴミは溢れ出して
誰かが拾えれば伝うかな

君の手には拳銃が
誰かを撃ち抜く弾丸が
撃たないならば死ぬだけなんだ
君の存在価値は無い

まだまだそんなもんじゃないだろ
まだそれじゃ代わりはいるだろ
まだまだそんなもんじゃないだろ
まだ君じゃなきゃ駄目じゃないぜ

価値	理由	それ証明
鳴らせよ心臓	零距離運動	
鬱	未練	これ証明
示せよ傷痕	爆裂反応	

まだまだこんなもんじゃないだろ
まだそれじゃ真似事なんだろ
まだまだこんなもんじゃないだろ
もひつけじやなあや駄目なんだよ

僕じやなあや駄目になれ

証明の弾丸（後書き）

前書きにもある通り、詞じゃなくて詩です。

これは、「詞集」について初の感想に「詩も読んでみたい」とあつたので、書いてみたものです。

感想貰うと滅茶苦茶嬉しい。

みなさんぐだわい（笑）

やつぱり、どうしても「詞」っぽさが抜けないです（笑）

まだまだだなあ。

draw (前書き)

作曲:joker

同名のインスト曲に向けての詩

dawn

遠く陽炎を眺めて
ふと振り返つてみる
何か変わつているのだろうか
残したのは足跡だけなのか

さあ、陽は昇つた

旅のはじまりには十分だろう
これ以上何を求める?
失うために歩くのだから

僕らは鳴らす それだけでいい
今この時の感触を
また掴むためじゃない
まだ繋ぐためなんだ

遠く陽炎を眺めて
ふと振り返つてみる
全て変わつてしまつたんだよ
残せるのは足跡ですらない

さあ、陽は昇つた

旅のはじまりだよ ようやくだ
これからも何か求めて
失いながら歩くのだろう

僕らは鳴らす それだけでいい

今この時の感触を
また掴むためじゃない
まだ繋ぐためなんだ

僕らが鳴らすんだ
見逃さない今まで

dawn (後書き)

joker っていうひねくれ者のギタリストと僕が中心となつてCDを作り、文化祭で配つたことがあります。

そのときに一曲目としてjoker が作ったインスト曲（楽器だけの曲）に対して書いてみました。

だから歌詞つてわけじゃありません。詩です。

対象があると詩は書きやすいですね（笑）

次は同じCDのラストを飾つたjoker のインスト曲に向けて書いたヤツを書します。

twiligt (前書き)

作曲:joker

向かうインスト曲に向かうの時

沈みゆく太陽
残滓にすがる月
僕らはその間を
何度も何度も歩いていこう

手を振つたら明日はあるかい?
手を放したら今日はあるかい?
手を触れなければ昨日はないよ
そういう隙間で生きているんだ

また昇つてまた沈む

ただそれだけだと至ても
僕らはいつかまた繋ぐだろう

聞こえたかい?
もう疲れたらう
聞こえたかい?
今日は終わるよ
聞こえたかい?
もう鳴り止んだよ
聞こえたかい?
また音は届くよ

いつか見た陽炎だけの
それだけに僕らはいない
透きとおる空に光が灯るまで
去りゆく陽を見ていよう

ほら、
灯つたよ

twillight (後書き)

前回 up したものと同様、joker の曲に向けて書いた詩です。
単純にイメージを書いてみただけです。

そういえば、いつも明確な対象がある詩ははじめてかもね。
まあ結局、自分自身に帰着している感は否めないが（笑）

恋の恋の恋 (前書き)

作詞：村雨

作曲未定

目を閉じれば空が見えて
目を開ければ君がいたんだ
いつか見たはずの世界
いつか居たはずの世界

空は霞み君は消えた
果たせなくなつて失せた光
もうそれが何なのか
そもそもあるのかさえ見えないよ

ねえ、もう僕には何もないよ
君が望むものなんてどこにもない
もうわかっているんだろう
ここにいるべきじやなかつたんだ

目を閉じれば君が見えて
目を開ければ夜が満たした
そこに見えたこの世界
黒と空のこの世界

何も言えず何も出来ず
ただ居るだけの虚ろな価値
切り捨てる勇気さえ
投げ出した勇気さえ見えないよ

ねえ、もう僕には何もないよ
なるべき自分もなりたい自分も
もう聞かないでください
ここにいるべきじゃなかつたんだ

開き直るのも怖い

閉じ込めるのも怖い

認めるのも怖い

目を背けるのも怖い

会うのも怖い

一人も怖い

生きるのも怖い

死ぬのも怖い

すべて怖いんだ

もういやなんだよ

僕が救つたのは逃げ出したい自分

君が救つたのは君自身だ

君の居る砂の上から出て

誰もを傷つけていくんだ

ねえ、もう僕には何もないよ

そうして僕は損なわれていくんだ

もう見下しているんだろう

このままずつと失い続けるだけの人生

首を絞めて自分でやめる

そんな僕が嫌いなんだ
そんな僕は嫌いなんだ

もういいだろう
ここにいるべきじゃなかつたんだ

まず言つておきますが、自殺したいわけではないので「安心を（笑）

この詞は、架空パンクの真似じやないですけど、原詩があります。

一年ちょっと前、部活で辛いことがあって、ちょうどそのときに書いたものです。

自分で勝手に失敗して、人を泣かせて、勝手に全部投げ出して、人を巻き込んで、勝手に自分を傷つけていました。

当時は本当に死にたいぐらい辛かつたし、実際あとちょっとで死ぬぐらいまでやつたこともあります。

今はあのときに比べて、進化か退化かはわからないけど色々と変わりました。

それでも、あの時の嫌な感じは今でも通じているものがあります。最近でも「冗談じやなく辛い」とがつたし。

原詩に手を加えていくと、まるでえていくのを拓むみたいにやりにくかつたです。

だから割とまんま載せてます。

こんど原詩も載せてみよつかな。

読み返してみると、吐き氣がするほど辛さが鈍く蘇ってきます。書いたことを後悔するぐらいに。

でも、こんな僕もいるつてことを、示しておきたかった。他でもない、自分のために。

そんな利己的な詞ですが、いかがでしたか？

ひかりのうた

名前をえとえられない横顔に

僕は触れようとした

届かなかつたみたいだ

十分に揺らぎすぎて

ただひとつ知つて欲しい

後悔しているんだ

僕だつて知つてしまふ

後悔しているんだ

後悔しているんだ

僕も君も同じなんだ

息を吸つて心を吐いて

違うのは そうどこか遠くで

鳴り響くひかりのうた

自分をえ見つけられない風景を

君は描こうとした

見えなかつたみたいだ

十分に揺らぎすぎて

ただひとつ知つて欲しい

どうしても忘れない

僕だつて知つてしまふ

どうしても忘れない

僕も君も同じなんだ

ここに生きて心を削つて
違うから もう両手放して
耳塞ぐひかりのうた

僕が描いていくストーリー
君の時間を奪い去った
君がいないそのストーリー
僕の時間を止めてしまった

僕も君も同じなんだ
泣きじやくつて心を決めて
違うのに この胸に届いた
重なり合ひひかりのうた

君の音（前書き）

作詞：村雨

作曲未定

君の音

羽根を持たない僕たちには
この空は広すぎたのか
飛べない鳥を待っているものは
何も見えない夜の光

羽根を持つてる人たちには
この空は狭すぎて
もう飛んでいることもわからない
全て溶けてく昼間の影

もう触れられないんだ
気付いてしまったから
未来を求めて伸ばした手の
その先にある昔の傷口

それでも僕らは歌えるんだ
通らない声 心の奥で
待っているよ いつまでも
伝う想いが鳴らすまで

だから今は手を振ろう

羽根の代わりに背負つたのは
ちっぽけで重たいムスタング
鳴らしていくよ 僕らの傷を

遥かやなここの田々を

それでも僕らは歌えるんだ
通らない声 心の奥で
待っているよ いつまでも
云う想いが鳴らすまで

さよならを言つたぶんだけ
僕らは繋ぐ 君の音
さあほら 何も無いけれど
届くまでやめないでいるよ

君の音（後書き）

いずれ再びこの歌は登場します。
まだ先になると想いますが、この詞に絡めてある作品を作りたい
思っていますので。

セレブレーション（前書き）

作詞・作曲：村雨

制作中

セレブレーション

暗い壁を睨みつけて光へ手を伸ばす
待ち受ける日々のノイズを吸い込むために叫ぶ

いつかの日 感謝の気持ち忘れて
失うことに怯えたけれど
今ならば言えるだろう
「僕はここにいる」

C e l e b r a t i o n y o u r b i r t h d a y
今ここで会えたこと それだけでいい
C e l e b r a t i o n y o u r b i r t h d a y
何も持たないままのあなたを祝おう

Happy birthday

意味のない日々を過ごしている
それでもいいんじゃない?
ほんのちょっとでも笑えれば蠟燭の火は灯る

今日この日 そうやつて悶えながら
必死に生きて傷つくけど
僕たちは叫べるよ
「本当にありがと」

C e l e b r a t i o n y o u r b i r t h d a y

今ここで会えたこと それだけでいい

Celebration your birthday
何も持たないままのあなたを祝おう

Happy birthday

借りたものを返すまでは
ずっと歩み続けて

Celebration your birthday
今ここで会えたこと それだけでいい
Celebration your birthday
何も持たないままのあなたを祝おう

Happy birthday

ラララ
....

セレブレーション（後書き）

親友・真琴が誕生日だったんだけど、忙しかったから時間を置いて誕生会をすることに。

とゆーわけで書いてみた。

まあ、これを聴かせるわけでもないから完全な自己満だがな（笑）だから、見てくれた全ての人々へのバースデーソングだと思ってください。

そういうえば、初めて英語使った詞です。

三毛猫ステップ（前書き）

作詞：村雨

作曲未定

三毛猫ステップ

携帯の電池が切れた

どうでもいいか 気にならんな
家のテーブルに財布忘れた
これはちょっと拙いかな

家路

捨て猫

とりあえず撫でておいて
早く家に帰る

捨てられない思いを

吐き出せずただ垂らす

三毛猫は心に住み着いたよ
涙を飲ませてあげよう

学校から電話が来た

どうでもいいか 適当でいいや

段ボールに心忘れた

取りに行こうか まだ早いが

ステージ駆け抜ける輝きを思い出しても
遠くどこか行きたい

捨てられない風景を

描けなくて画用紙破る

三毛猫はそつと欠伸したよ

そろそろ外へ出かけよう

恣意そのまま空飛びたい
シーソー漕いでホップステップ
四月前の後悔も
三年前と変わらないや

捨てられない風景を
描けなくて画用紙破る
三毛猫はそつと欠伸するよ
そろそろ出かけよう

捨てられない思いを
吐き出せずただ垂らす
三毛猫は心に住み着いたよ
涙を飲ませてあげよう

二毛猫ステップ（後書き）

新境地。

シンプルにイメージを形にしました。

初めてストーリー性を持たせてみた詞です。

冬の陽（前書き）

作詞：村雨

作曲未定

冬の陽

早朝の小学生
道行く猫を撫でている
張る空気をふわりと舞う太陽

通学と一番線

君が来るのを待つてみる
冷えるベンチをそつと融く太陽

ふわり舞う ふわり舞う

冬の陽の破片

透き通る空気の向こう

ぼんやり君が過ぎ去つていく
走つてみたら残り香

耳の痛みと陽の光

ふわり舞う ふわり舞う

冬の陽の破片

そつと消える そつと照らす

誰かの歩いた道

透き通る空気の向こう

ぼんやり君が過ぎ去つていぐ
走つてみたら残り香

耳の痛みと陽の光

視界の隅 窓の向こう
ずっとどこかで待つていて
心の音 鐘のように
透明な光と交うよ

冬の陽（後書き）

寒い日の朝の風景が大好きです。

君よ走れ（前書き）

作詞：村雨

作曲未定

君よ走れ

「言葉だけじゃ足りない」

君は絵を描いた

白いキャンバスを染めていくポスターカラー

投げ捨てた筆と黒の絵の具
淡く朽ちていくなら破り去れよ

広すぎる空を眺めて笑おう
何もない君の手を見て言おう

君よ走れ

靴紐が解けたの

絵の具が無くなつたの

どうして止まつてくれないの

僕が止めてやるんだ

そう君が望むなら

でもまだそんな時じゃない

君だつて嫌なんだろ？

広すぎる空を眺めて笑おう
何もない君の手を見て言おう

君よ走れ

いつかまた動けなくなつたら時計を止めてあげよう
その先は知つてはいるはずだ
繰り返しだけじゃない

広すぎる空を眺めて笑おう
何もない君の手を見て言おう

君よ走れ

君よ走れ

君よ走れ（後書き）

僕なりの応援歌です。

現代を生きる皆さんへ、不器用な僕が小さくホールを。

十一月（前書き）

作詞：
村雨

作曲未定

十一月

何か暖かいものが流れました

十一月の晴れのせい

目を閉じれば見えてきます

寒い日の朝のせい

真夜中に雨が降りました

十一月の空のせい

遠くで貨物が走ります

寒い日の音のせい

あの日伸ばした手の先に

あなたは待ってくれますか

今振り向いた雑踏に

あなたは歩いてくれますか

朝早く目が覚めました

十一月の鳥のせい

路上に黒く丸まります

寒い日の猫のせい

まだあの日が忘れられない
意気地無しを笑ってくれますか

まだ諦めようとしない

不器用を蹴飛ばしてくれますか

あの日伸ばした手の先に

あなたは待つてくれますか

今振り向いた雑踏に

あなたは歩いてくれますか

笑ってください

蹴飛ばしてください

許さないでもいいから

泣かないでもいいから

雨あがねる (前書き)

作詞：村雨

作曲未定

僕の想いがどうか届きますよ」

そう呟いて両手合わせた

僕らはいつも雲の上

いつまでここにいるのだろう

空が崩れかけたとき

僕らはまだここにいて

手を繋げずに待っている

涙さえも流せずに

『3』

君の願いがどうか叶いますよ」

手紙に書いて川に流した

僕らはいつも砂の上

いつまでここにいるのだろう

足が揺らぎかけたとき

僕らはまだここにいて

手を繋げようと立っている

涙だけは流さずに

『・』

君の願いがどうか叶いますよ」

そう呟いてマイク放した

僕らはいつか空の下

どこかで鳴らすことだけでも
僕の想いがどうか届きますように

『1』

心が壊れかけたとき
僕らはまたここに来て
手を繋ぐために歩いている
涙を流していいように

『1』

閃光（前書き）

作詞・作曲：村雨

製作中

閃光

今僕が此処に居たいのは
さよならを言う勇気が無いだけ
今僕が此処で鳴らすのは
伝えていることを示したいだけ

振り切つたレッドゾーン
ただそれを打ち崩す

今君と此処に居たいのは
自分の心臓を感じたいだけ
今君を此処で歌うのは
君の存在を感じたいだけ

割れ出したスピーカー
ただそれを打ち崩す

青色の閃光になつて
遙か遠く夢を壊して
破片だらけの視界が
君の通らない声を証明して
飛ばせ

右手にちつぽけな答えを
左手にレス・ポールを
刻むAマイナー
響け世界よ

青色の閃光になつて
遙か遠く夢を壊して
破片だらけの視界が
君の通らない声を証明して
飛ばせ

迷えるCD（前書き）

作詞・作曲：村雨

製作中

迷えるCD

レコードプレイヤー

君は用済みなのさ
ジ・ジ・ア・レ・プ・ノ・イ・ア

今は君の時代さ

船せみ拵一巻

内臓ディスク

卷之二

次は誰の番？

次は僕の番？

ねえ僕に歌わせてよ

少 ル な ピ ー キ あ る た し の

ପାତା ୧୫

冴えなハロック

君は用済みなのさ

法行二〇四、一八二、一八

真空管アンプ

DAN

今は君の出番だ

次は誰の番？

次は僕の番？

ねえ僕に歌わせてよ

ホットなソロでシビれるよ

聴きたいんでしょ

くるくるくるくる回してよ

次は誰の番？

次は僕の番？

次は誰の番？

次は君の番？

ねえ僕に歌わせてよ

クールなビート刻みたいの

見えているでしょ

くるくるくるくる

ねえ僕に歌わせてよ

ホットなソロでシビれるよ

聴きたいんでしょ

くるくるくるくる回してよ

迷えるじロ（後書き）

新境地開いておきました。

だいぶ新しい試みだと思つんですけど
いかがですかね？

正夢ホリデイ（前書き）

作詞：村雨

作曲未定

正夢ホリディ

明日だけは楽しませたい
国民のホリデイ
明日だけはお願ひね
めぞましの占い

明日だけは信じたいよ
NHKのウエザーニューズ
明日だけを楽しみに
今週テストを頑張ったんだ

眠れないのは誰のせい?
カフェインなんかはとつてない
眠れないのは誰のせい?
夢見た明日を想うよ

明日だけは寝癖無しで
半年ぶりのヘアワックス
明日だけ革ジャン着て
イカしたカツコをしてみよう

眠れないのは誰のせい?
照明なんかはつけてない
眠れないのは誰のせい?
夢見た明日を想うよ

目を閉じてみたって
どうせまた君がいるんだ

神様お願い
正夢にして

眠れないのは誰のせい?
雑音なんかは聞こえない
眠れないのは誰のせい?
夢見た明日を想うよ

コフレイン（前書き）

作詞：村雨

作曲未定

リフレイン

どうか

ねえ

どうかそのまままで

もう飽いた

凪いだ温い風

正解はどこかの頂上で

それは泣いた空

ナイター

ライトアップ

どうか

ねえ

どうか変革を

そう吐いた

描いた論理とハート

正解はどこかの長城で

きっとずっとリフレイン

振動回路

理論上の熱量保存

永遠性

循環パワーコード

輪廻の想像に酔う

劣等感

レッテル

弾くレインコート

触れるなって

連絡船

テープ切って行ってこい

きつとしづとリフレイン

振動回路

理論上の熱量保存

永遠性

循環パワーコード

輪廻の想像に酔う

少年の夢（前書き）

作詞：村雨

作曲未定

少年の夢

遠く遠く 海の向こう
イカラスの羽根をもぎ取った
勇気と希望を置いたまま
僕らはどこままで行くのだろう

遙か彼方 空の向こう
ルシフルの羽根を剥ぎ取った
裏切り 損ない 傷をつけ
僕らはここまで笑えるの

ああ世界が憎い
その夢さえ儂い
どの光も汚い
ほら君だけ眩い
すべてをくれよ
すべてをくれよ
もう待てないよ
今果てたいよ

すべてをくれよ
すべてをくれよ
空飛びたいよ
雨止めたいよ
目の前の扉開けたいよ

あのあと彼らは死んでいった

それが何だつていうんだ
あのあと僕らはキスをした
それが正しい そうだろう

すべてをくれよ
すべてをくれよ
もう待てないよ
今果てたいよ

すべてをくれよ
すべてをくれよ
空飛びたいよ
雨止めたいよ
目の前の扉開けたいよ

ロック・スター（前書き）

作詞：
村雨

作曲未定

ロック・スター

皮肉なものだ
いつかより僕らはずつと僕ららしく
ぶつけて損なうものなんて

本当はもともと無いのかな

悩むな 止まるな 傷つくな
時間の無駄だと言ひけれど
僕らは何でこの街で
もがき苦しみ生きるのか

痛みの消えた人生なんて
きつとそんなの意味は無い
ロック・スターになりたいよ
誰かが生きる そのために

君は誰かを救うため
走り続けるというのに
どうして僕はこんなにも
惨めな夢を求めるの

悩んで 止まって 傷ついて
命を賭して歌うならば
僕らはいつか叶うまで
君の笑顔を祈つている

痛みの消えた人生なんて
きつとそんなの意味は無い

ロック・スターになりたいよ
誰かが生きる そのためには

フレディだって
レノンだって

いつかどこかで鳴らしている

ボーナムだって
コバーンだって

いつかどこかで泣いている

痛みの消えた人生なんて
きっとそんなの意味は無い
ロック・スターになりたいよ
誰かが生きる そのためには

LINK (前書き)

作詞：
村雨

作曲未定

今日は何時に起きたとか
昨日誰に怒られたとか
僕は誰とも違つて
他の誰とも違つ

いつ どんな傷を負い
どうして心閉じたのか
君は誰とも違つて
他の誰とも違つ

知らない誰かと手を繋ぐ
それは理想だと笑うのかい?
理解なんて求めていない
新たな世界を感じるかい?

歌を歌おう

君がそこにいることに
歌を歌おう
僕ら ここで繋ぐんだ

本当に大切なものの
本当に必要なもの
便利なテレビなんかじゃない
本当に大切なものの
本当に必要なもの
すべてを壊せるちっぽけな

歌を歌おう

君がそこそこいること

歌を歌おう

僕ら ここで繋ぐんだ

明日をそこそこ見ることでも
昨日をただ嘆くことでも
そんなことを言いたいんじゃない

もつと単純に

誰もが持つ鎖を右手に
心の旗を左手に
見えるだろう
すべて繋がるんだ

歌を歌おう

君がそこそこいること

歌を歌おう

僕ら ここで繋ぐんだ

君と僕を繋ぐんだ

誰かと世界を繋ぐんだ

LINK (後書き)

僕が音楽を好きでいる理由です。

無条件に人を繋いでくれる。

祈り（前書き）

作詞：村雨

作曲未定

祈り

僕が今ここにいること
きっとその下にはいくつもの犠牲があつて
それなのにこんなにも輝けない

君が今そこにいること
ずっと誰にだつて見られずに
ひとりで戦い続けている
だからこそ美しい

祈ろう

いつか君の言葉が世界を照らすまで

叫ぼう

いつか僕の想いが世界を揺らすまで

僕が今ここにいること

きっとそれだけでも充分に夢を叶えられて
それなのにどこまでも動けない

君が今そこにいること

ずっと傷ついて

たつたひとり 自分の夢を探している
こんなにも煌めいて

祈ろう

いつか君の言葉が世界を照らすまで

叫ぼう

いつか僕の想いが世界を揺らすまで

何がいけないことで
何が出来ないことで
何をするべきなのか
どこかで分かっているんだ

答えなんて無いはずの自由

ただそれだけを求めて

風に吹かれて傷だらけになろう

祈ろう

いつか君の言葉が世界を照らすまで

叫ぼう

いつか僕の想いが世界を揺らすまで

サンダル少年（前書き）

作詞：村雨

作曲未定

サンダル少年

冷えきつた月が照らす路地
どこへ行くのかサンダル少年

街灯が揺らぐ線路道

ただ歩くのはサンダル少年

彼の目には世界が見える
彼の目には歪みが見える

暗闇 世界を覆うように

君を解かすような陽になりたい
雲が光を放つように

涙拭うような風になりたい

ぐらついた時計刻む公園

どこへ行くのかサンダル少年

雑音をゆるく流す家

ただ探すのはサンダル少年

彼の目には光が見える

彼の目には痛みが見える

暗闇 世界を覆うように

君を解かすような陽になりたい

雲が光を放つように

涙拭うような風になりたい

届かぬよつの優しさを
本当の意味の優しさを

彼の目には全てが見える
彼の目には自由が見える

暗闇 世界を覆うように
君を解かすよつな陽になりたい

雲が光を放つように
涙拭うよつな風になりたい

テニスコート・ウォーゲーム（前書き）

作詞：村雨

作曲未定

テニスコート・ウォーゲーム

王子様のステップ&ステップ
お嬢様のヒット&アウェイ

当たつて砕けてまた明日

本当の答えはまた明日

そこ君とギブ&テイク

ニクい君とキャッチ&リリース

今度は決着また明日

本当の答えはまた明日

テニスコートでウォーゲーム

伝えて私のレーザービーム

テニスコートでウォーゲーム

あの子を撃ち抜くレーザービーム

ボブ・ディランのロック&ロール
ジョン・レノンのツイスト&シャウト

流しつばなしてまた明日

本当の答えはまた明日

ワタシとアナタのキス&クライ
ワタシとアソツのボーイ&ガール

なにがなんだかまた明日

本当の答えはまた明日

テニスコートでウォーゲーム

伝えて私のレーザービーム

本当の答えはまた明日

テニスコートでウォーゲーム
あの子を撃ち抜くレーザービーム

ずっと真っ直ぐ
ずっとひたむき
ずっと不器用
そんなもんです

テニスコートでウォーゲーム
伝えて私のレーザービーム
テニスコートでウォーゲーム
あの子を撃ち抜くレーザービーム

不死身のハイドロード（前書き）

作詞：村雨

作曲未定

不死身のハイトビート

ステージの上 Tシャツの英雄は
「間違っている 最悪だ」
マイクをへし折った

雜踏紛れ Yシャツの反逆者
「そんな力は僕にない」
誰かにぶつかった

テレビの向こう側
最後の勇者よ
まだまだ終わらせないぜ
消えたりて無駄だぜ
不死身のハイトビート

ディスクを回す Tシャツの英雄は
「俺らは死んだ 見てみなよ」
ギターをぶん投げた

どこかの公園 Yシャツの反逆者
「僕らがいつか取り戻す」
言葉は消えていった

テレビの向こう側
最後の勇者よ
まだまだ終わらせないぜ
消えたりて無駄だぜ
不死身のハイトビート

いつか消えてなくなるなんて
そんなのきっと嘘じやない
目を見開いて夢を見ろ
銃声なんか超えてやる

テレビの向いの側

最後の勇者よ
まだまだ終わらせないぜ
消えたって無駄だぜ
不死身のハイトビー

むづ 一歩 (前書き)

作詞：村雨

作曲未定

もう一步

はじめて君と出会った日なんて
覚えてはいなけれど
きっとそのときからずっと
僕らしくありたかった

だつてそうだろ?

まだそこに壁がある

だつてそうだろ?

まだそれを壊してない

正しくないもの蹴散らして
もう一步だ さあ もう一步
大人の言い訳振り切つて
もう一步だ さあ もう一步

いつかは君と涙流そう
それまで泣かないでいよう
ずっとそれまで君らしくいて
僕はただ願っている

だつてそうだろ?

まだそこに闇がある

だつてそうだろ?

まだ光差してない

理不尽なんかを蹴散らして
もう一步だ さあ もう一步

誰かの泣く声聞き分けて
もう一歩だ さあ もう一歩

だつてそうだろ?

まだそこに想がいる

だつてそうだろ?

まだそこまで来ていない

本当の自由へ その道を
もう一歩だ さあ もう一歩
本当の君へ その坂を
もう一歩だ さあ もう一歩

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4650v/>

詞集

2011年12月16日19時52分発行